

山の神

山の神とは集落の守り神として、集落の入り口となる道脇などに祀られています。明和町には約 200 基の山の神が鎮座しています。山の神は基壇の上「山神」「山ノ神」「山之神」と書かれた石碑が据えられています。基壇には他にも鳥居やしめ縄があるものもあります。

山の神への信仰は今も根強く残っており、山の神を敬う風習が受け継がれています。

- ・集落の中で誰かが亡くなると、山の神を半紙で覆い、隠す。元々は出棺のときに山の神の前を通ることになる場合に、山の神が汚れないように隠していました。
- ・中海では毎年 1 月 7 日に一年飾ったしめ縄を燃やす「どんど焼き」を山の神の前で行います。どんど火で焼いた餅を山の神に供えます。

山の神がもともとあった道が無くなったりした場合は、山の神を神社やお寺など、一か所にまとめられることもあります。



佐田の山の神



さいくうあと
通信第38号



半紙で隠された山の神



中海のどんど焼き

キーワード：山の神、どんど焼き、文化遺産